

# サトイモ

## 栽培のポイント

### ① 良い種芋を用意しましょう

小さい種芋は大きく育たない傾向にあるので、40～60gの大きい種芋を使用しましょう。芽が欠けているものや傷のあるものは避け、丸くてふっくらとしている、形の良いものを選ぶようにしましょう。

### ② 連作障害に気をつけて

サトイモは連作障害が出やすい野菜なので、少なくとも3～4年は間をおくようにしましょう。良質な堆肥や有機物を施用し、地力の増強と土壌中の微生物バランスの改善を図ると、より高い効果がみられます。

### ③ 土寄せは定期的に

大きくて良いサトイモを作るためには、土寄せ作業が必要になります。1回目は本葉2枚が土から出てきた時点で、2回目は本葉が3～5枚になる1回目から1～2週間たった頃です。小さな芽は寝かせて、葉っぱが見えなくなるくらいたっぷり土をかぶせることがポイントです。



## 栽培カレンダー

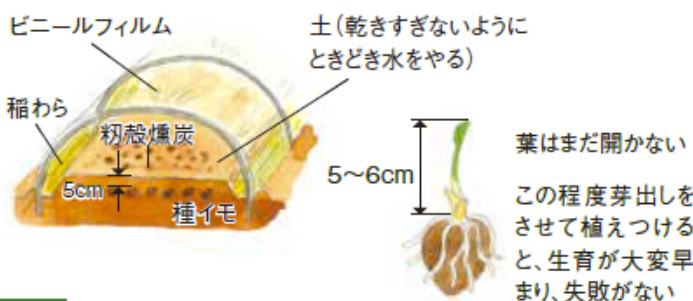


● フレーム内催芽始め ○ 植えつけ 〓 収穫

## 1 種イモの準備

種イモはふっくらとして形が整い、芽が傷んでいない、40～60gのものが最適

## 2 芽出し



## 3 元肥入れ

〈畝の長さ1m当たり〉  
 油粕: 大さじ3杯  
 堆肥: 4～5握り  
 化成肥料: 大さじ3杯



## 4 植えつけ

芽のほうを斜め上方に向け、30～40cm株間に植えつける



〈フィルムマルチをする場合〉

芽出した種イモの場合



無催芽の種イモの場合



## 5 追肥

第1回(5月下旬～6月中旬)  
 第2回(6月下旬～7月上旬)

〈1株当たり〉 大きく育ったらマルチを取り除き、土寄せに化成肥料: 大さじ2杯 先立って畝間に軽く溝をつけて追肥する

## 6 土寄せ

第1回: 1回目の追肥後



肥料を埋めるように通路の土を株元に寄せる土寄せ、芽かきが足りないと細長い不良品が多くなる

第2回: 2回目の追肥後

子イモから出た小さな芽は、土寄せのとき倒して土で埋める

## 7 収穫

探り掘り

8月中旬、イモが直径2cmくらいのとき探り掘りして、きぬかつぎの味を楽しむ

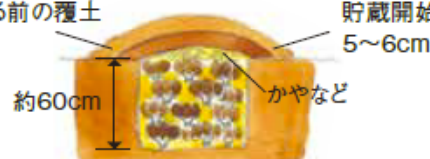
掘り取り作業

11月頃になったら、前もって地上部を刈り取ってから掘りあげる



## 8 貯蔵

厳寒期に入る前の覆土 10cm以上



貯蔵開始時の覆土 5～6cm

株からイモを外さないで下向きに詰め込む